

「第2回塩田平の文化財クイズ」出題の文化財に関する解説資料

第1問の正解 本堂が北向きである寺は林法院（保野）

- 宗派は浄土宗。本尊は阿弥陀如来。
- 永禄年間（1558～1569）の創建。上田から北向観音に向かう旧別所街道沿いにある。元禄4年（1691）頃から上田藩の御休息所と定められ、藩主が北向観音に参拝する際、当寺で休息する習わしだったという。
- 天保7年（1691）本堂焼失。昭和13年（1938）に本堂再建、北向きに建てられた。
- 四国霊場の「塩田平札所めぐり」の第19番札所。



本堂



本尊 阿弥陀如来像

※他の選択肢の寺院

- **眞光寺**（五加）
真言宗智山派。本尊は聖観世音菩薩。明治6年（1872）から9年間、中塩田小学校の前身である盈進学校の校舎となった。塩田平札所めぐりの第21番札所。
- **青龍寺**（柳沢）
浄土宗であったが、令和4年（2022）、浄土宗の寺としては解散し、地元で管理。本尊は阿弥陀如来。塩田平札所めぐりの6番札所。
- **法樹院**（舞田）
浄土宗。本尊は阿弥陀如来。文治元年（1185年）、渋谷土佐入道昌順の菩提のため建立され、その幼名をとって「金王庵(こんのうあん)」と呼ばれた。塩田平札所めぐりの第17番札所。

第2問の正解 「鶏岩(とりいわ)の卵」がある神社は安曾神社（石神）

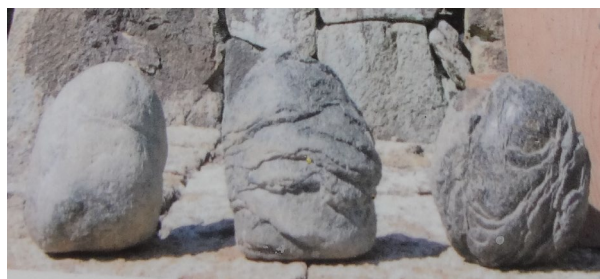
- 安曾岡山系中腹に谷を挟んで東に「雄鶏岩(おんどりいわ)」、西に「雌鶏岩(めんどりいわ)」と呼ばれる大岩があり（二つ合わせて「鶏岩」）、3つの卵を産んだと伝わる。卵の所在は不明だったが、平成20年（2008）、安曾神社境内の石上布留社(いしがみふるしゃ)の神殿内から見つかった。



雄鶏岩



雌鶏岩



鶏岩の卵

※他の選択肢の神社

- **泥宮**（上本郷）
御神体は「泥」。祭神は建御名方命(たけみなかたのみこと)。信濃国分寺や生島足島神社とともに「レイライン」を形成。生島足島神社の前身とも言われ、深い関係がある。
- **八木沢天満宮**（八木沢）
祭神は菅原道真。平安時代中期、恵心僧都(えしんそうず)により京都北野天満宮から菅公の霊を

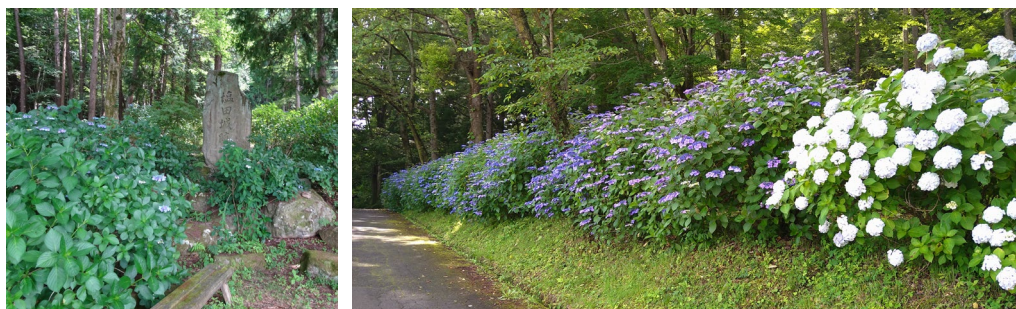
合祀したと伝わる。入口に木曾義仲の供養塔がある。

○ **氷上王子神社**（新町）

祭神は建御名方命、月夜見命(つきよみのみこと)、氷上王。王子塚古墳の前方部を整地して社地となっている。市指定無形民俗文化財の太々神楽が奉納される。

第3問の正解 塩田城跡周辺にたくさんある植物はアジサイ

- 前山寺の脇から塩野神社まで約1.5kmの遊歩道「あじさい小道」がある。7月頃にはガクアジサイが沿道に咲くが、塩田城跡付近は特にたくさんある。地元の東前山自治会の方々が整備し、毎年7月中下旬の土日に「あじさい祭り」が開催される。



第4問の正解 「ねじり紅葉」のあるお堂は大湯薬師堂（別所温泉）

- 大湯薬師堂は、弘安4年（1281）に開創されたと伝わる。塩田平札所めぐりの番外札所。お堂の周りには北原白秋、与謝野晶子などの歌碑がある「大湯歌碑公園」になっている。
- 「ねじり紅葉」は、「別所五木」の一つ。根元から幹が縄のようになってねじれている。ただ、途中まではねじれているが、それから上は素直に成長した大木である。
- 樹齢も、何が原因でねじれたかも不明。
- 大湯薬師堂本尊の薬師如来にお参りし、この霊木にもお参りすると、ねじれ、曲がっていた心が素直になると伝わる。



大湯薬師堂



お堂内部



ねじり紅葉

※他の選択肢のお堂

○ **鈴子薬師堂**（鈴子）

旧松本郷（古安曾と富士山）にあった五光寺の一つ「来光寺」の薬師堂。寺は1640年頃に廃寺となり、お堂と本尊の薬師如来像等は残っている。塩田平札所めぐりの4番札所。

○ **十人薬師堂**（十人）

宝永元年（1704）修理の記録。江戸時代中期には尼僧がいたがその後無住。昭和35年（1960）お堂を解体し公民館建設。平成30年（2018）別の場所に公民館を新設し、一角に薬師堂を設置。塩田平札所めぐりの7番札所。

○ **中野薬師堂**（中野）

弘法大師が柳の大木の根元で地蔵（元木の地蔵）を、先に近い末木で薬師如来（末木の薬師）を彫り、地蔵は手塚に、薬師は中野の龍澤寺のお堂に南北に向かい合うように安置。末木の薬師は、明治30年（1897）に現在地に建てられた薬師堂に安置された。現在のお堂は、平成25年（2013）に新築。

第5問の正解 保野や手塚の道祖神の碑文を書いたのは願海

- 願海は、江戸時代末期から明治初の天台宗の僧。千日回峰の大神を満行した「大神満」。
- 塩田を訪れた際、手塚で枯れてしまった竜王湧水を祈禱によって復活させるなど功績があった。



保野の道祖神



手塚の道祖神

※他の選択肢の僧

- **空海**（弘法大師）
真言宗の開祖。塩田での逸話も多い。精舎を建てる地を探していて独鈷山に目を付けたが、谷間が九十九しかなかったので、「もし百谷あったなら、ここに住まんものを。」と言い残し、山頂に仏具の「独鈷」を埋めて立ち去ったと伝わる。
- **西行**
平安時代末期から鎌倉時代初期の僧・歌人。中野に庵を結んだ跡といわれる「信濃西行塚」があったり、子どもたちとやりとりをして負け、北向観音に行く道にある橋を渡らなかったという「西行の戻り橋」があるなど、塩田での逸話もある。
- **円仁**（慈覚大師）
平安時代の天台宗の僧。天台座主も務めた。常楽寺や北向観音を開創。千手観音のお告げがあり、木像を刻み、北向きに観音堂を建て安置したのが北向観音堂の縁起とされる。

第6問の正解 ホタテ貝型をした古墳は王子塚(おうじづか)古墳（新町）

- 氷上王子神社の社殿横にある。東信地方では唯一のホタテ貝型。前方部は社殿建設時に削られたため、後円部のみで円墳に見える。南北の長軸約50m、後円部は直径39m、高さ5.7m。
- 塩田でも最も古い古墳で、5世紀中頃から6世紀前半（古墳時代中期）の築造と推定される。
- 内部調査は未実施であるが、塩田平一帯を支配した豪族の墳墓とみられる。



ホタテ貝型古墳



後円部上り口



西側から見た後円部(右側にわずかに前方部の盛土)

※他の選択肢の古墳

- **皇子塚(おうじづか)古墳**（手塚）
標高530mの丘にある円墳。直径15m、高さ3m。7～8世紀頃の古墳時代末期の築造。発掘により、金環、勾玉、直刀、土師器、須恵器など多数出土した。
- **他田塚(おさだづか)古墳**（下之郷）
「いにしへの丘公園」周辺にある下之郷古墳群の中心的古墳。信濃の古代豪族の他田氏に係するとの伝承がある。南北の直径19m、東西の直径が17mの円墳。7世紀前半の築造とみられる。発掘により、遺体、馬具、装身具、直刀、土師器などが出土した。
- **口明塚(くちあけづか)古墳**（保野）
保野と福田の境、小山斜面東南麓にある横穴式円墳。直径13m、高さ4m。

第7問の正解 中世に市が立ち、市神が祀られていた中塩田の地区は保野

- 保野の市は、鎌倉時代には始まったとされ、室町時代から江戸時代初期にかけて、三と八の日、月6回開かれる「六斎市」に発展した。善光寺道と別所道の交差するこの場所は、近隣の人でにぎわった。
- 市神は、市のため祀られ、今は祠はなく石積みのみ。保野祇園祭のときは、塩野神社の祭神素戔嗚尊(すさのおのみこと)が一泊二日でここに遷座する。市神の建立時期は不明。
- 塩田の他の市は、東前山と別所にあり、上田では他に、原町、海野町、馬越にあった。

第8問の正解 遊佐准尉の慰霊碑が参道にあるのは猫山観音堂（下組）

- 遊佐准尉は、陸軍上田飛行場の教官で、教え子を何人か特攻隊に送った。「君たちの命がなくなるときは俺の命もない」と約束し、敗戦三日後の昭和20年(1945)8月18日に妻と生後27日の娘と共に自決した。昭和31年(1956)慰霊碑を建立。
- 猫山観音堂は、塩田平札所めぐりの番外札所。130段の石段を登った先にある間口3間(5.46m)、奥行3間半(6.37m)の観音堂。
- 元禄11年(1698)頃は練光寺というお寺で明治初めまでは住職が在職していた。養蚕が盛んな頃は蚕神様としても崇められた。



遊佐准尉慰霊碑



猫山観音堂



猫山観音堂内部（正面に観音像）

※他の選択肢の古墳

- **下小島大日堂**（下小島）
天和3年(1683)にこの地を開墾した人たちにより元禄14年(1701)建立。本尊は大日如来。下小島発足300年を記念し、昭和60年(1985)に現在のお堂を建立。
- **平井寺地藏堂**（平井寺）
塩田平札所めぐりの3番札所。建立年不詳。集落の西の小高い丘に建つ。四国八十八仏の2体の仏像は現存しないが、不動明王と地藏尊が新しく造られて寄付され、お堂に祀られている。
- **上小島薬師堂**（上小島）
建立は享保13年(1728)と伝わる。上田藩の計らいで小島大池の下から現在地に移転したと言われる。薬師如来像のほか、地藏尊を安置。これが回ってきた家は、人が亡くなったとき墓場の穴掘りをする習わしがあった。平成5年(1993)に薬師堂内に移した。

第9問の正解 「鎌倉道」が通った峠は砂原峠

- 鎌倉道は、建治3年(1277)塩田に移住した北条義政を祖とする塩田北条氏の館がある東前山から柳沢などを通り、砂原峠を越えて鎌倉に至る道といわれる。道幅約1.7m。
- 鎌倉時代、塩田は信濃国守護所が置かれ、幕府直轄地的な場所であった。塩田北条氏は「いざ鎌倉」というときは、ただちに馬に乗り、刀や槍を持ちこの道を通って鎌倉に駆けつけた



鎌倉道（推定）



鎌倉道の標柱と地図（手洗池西）

第10問の正解 鎌倉時代に樵谷惟仙(しょうこくいせん)が開山した時の安楽寺の宗派は臨済宗

- 樵谷惟仙は16歳まで常楽寺で仏法を勉強して19歳で1回目の入宋。4年後、鎌倉建長寺開山の蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)と同船帰国。その後36歳で2度目の入宋、14年間宋で勉強し幼牛恵仁(ようぎゅうえにん)を伴い帰国。帰国後、建治2年(1276)信州最古の禅寺として、臨済宗安楽寺を開創。
- 室町時代に衰退したが、15世紀後半から16世紀にかけて曹洞宗が隆盛し、1590年代、須坂・興国寺の高山順京(こうざんじゅんきょう)が中興開山となり、曹洞宗に改宗し現在に至る。



本堂



八角三重塔



樵谷惟仙(右)と二世幼牛恵仁(左)の頂相